

# 2020年度（令和2年度） 学校法人ゴスペル学園ゴスペル幼稚園

## 学校評価

〒901-0361 沖縄県糸満市糸満 1693-2

TEL 098-994-2145 FAX 098-994-2566

理事長 山内友子

作成日 2021年3月1日

2013年3月に宗教法人から学校法人に移行して7年。2019年4月からは子ども子育て新制度の私立幼稚園に移行しました。地域の幼児教育施設として、また本園の一層の教育の質向上を目的として、このように教職員による自己評価を実施するに至りました。本学校評価を踏まえ、本園の更なる教育活動と教育環境整備の充実、そして教職員の資質向上に努めます。

### 2020年度（令和2年度）の総括

今年度は新型コロナ対策で始まり、年度末まで終始「コロナ禍」での幼稚園活動になりました。最初の緊急事態宣言(2020年4月初旬から5月中旬)では臨時休園を余儀なくされ、園児達にとっても生活リズムや集団生活における制限など、これまでと違う日常に戸惑いもありました。教職員も一回目の緊急事態宣言中は初めて在宅勤務を経験するなど、初めてづくしの2020年度でした。それでも、幼稚園が再開し、園生活が進むにつれて、集団での学びの時間が本当に貴重であることを再確認することになりました。

本園では運動会と発表会が無観客の収録となり、クリスマス祝会は分散形式での開催となりましたが、行事を通して集団での学びの重要性を体感する一番大切な「日々の園生活」が守られうることを常に意識し、コロナ禍であっても充実した幼稚園生活を送ることができたと考えております。

2021年度以降も、発熱や呼吸器症状などの風邪症状がある園児や教職員の厳格かつ迅速な登園・出勤自粛の周知徹底を行っていきます。幼稚園ではできる限りの感染症対策を講じつつ、園児達の学びの保障を継続していけるよう努力していきます。

父母の役員様をはじめ、保護者からも多くのご理解とご協力を頂き、こうして年度末を迎えることができ、感謝と同時にこれから改めて気を引き締めて幼稚園生活を進めていく気持ちを新たにしております。

## 《 教育目標 》

『子どもたちひとりひとりが幼児期を精一杯生きることが出来る環境を』

「聞くこと」・「考えること」・「伝えること」が幼児教育の中で特に大切な事であると捉え、以下の保育方針をもって保育に携わっていきたいと考えています。

## 《 保育方針 》

『良心を持って判断し、豊かな感受性を備える』

園児たちが体験を通して知識と教養を高め、豊かな心を培い健やかに自律の精神を養い、それぞれの個性を大切に捉える教育をします。

### ① キリスト教保育

神の愛を感じ、人を愛することを目標とした保育

キリスト教保育とは、神の前での良心教育をその生命線としており、このことを踏まえて「本当に大切なことは何か」を園児と共に考えていきます。園児一人ひとりに寄り添い、園児一人ひとりが神と人ともに愛されている存在であることを実感出来る幼稚園を目指します。

### ② 自由保育

自由で温かい家庭的な環境での保育

それぞれの個性を尊重し、伸び伸びと自己表現が出来るよう、日々の様々な活動を通して園児達の発達を支えます。集団生活の中でのルールを学びながら、大切な幼児期に大好きなお友達や先生達と沢山遊び込むことに重点を置いています。

### ③ 知識を経験として学ぶ保育

伝えること・考えること・善し悪しの判断が出来る

他者と関わることにより、他者を理解し、つながりを大切にする。自然に触れ、知ることで園児の創造力と感受性が高まることを目指します。

## 1. 2020年度主要目標

① 全職員、本園の教育目標・保育方針の理解、実践、その目標の達成に努める。

1. 月に一度の教師会では、当該月の聖句や園の目標などを教職員個人も意識する。本園の建学の精神にのっとり、キリスト教保育を実践していく時に大切な心構え、予備知識など、園の方針をしっかりと各教師が理解したうえで、日々の保育を行うことを改めて確認する。

② 教職員の質の向上を目指し、幼児教育に関する県内外の研修・講演会等に積極的に参加し、日々の園児との関わりや指導に役立てる。

1. コロナ禍の中、遠隔（リモート）での研修参加も本園では積極的に推進していき、教師も可能な限り学びの継続と教育の質向上を意識する。

- ③ 園児一人ひとりに対し、全教職員（クラス担任から事務員まで）が個々人の成長と子どもらしい育ちが確保されるよう、必要な情報の共有をこれまで以上に深め、各園児に最適な環境を提供できるようにし、当該園児の日々の課題に共に向き合う。
1. 毎日の終礼ミーティングで話し合いをする場として活用していく。
  2. 必要に応じて、関りが深い教職員や当該園児の保護者とも面談を行い、幼稚園と家庭の双方で園児の人格を認めつつ成長過程を共に考える。
- ④ 食育の一環として、園庭や屋上で野菜や果物の栽培を行う。園児自身で育てた野菜や果物をみんなで調理、また食する過程と成長の喜びを感じ取る。※新型コロナ対策として、リスクを伴うと判断される食育活動は教師を中心に行い、感染予防を常に意識して食育活動を実施する。
1. 新型コロナの流行状況に留意しつつ、出来る限り園児達にとって大切な食物・植物の成長や管理を体験できる食育推進をしていく。一つには、これまで以上に植物の毎日の成長過程を可視化することで、生物に対する興味・関心を深めていく。
- ⑤ 安全対策として原則毎月1回、防犯・火災・地震等の訓練を実施する。年に2回は消防署と連携（訓練の事前通告を含む）して、緊急時を強く意識した訓練を行う。
1. 教師間でも役割を再確認し、それぞれの訓練でリーダーとなる職員を定めて、教職員の連携を図るとともに、万への備えを全教職員が自覚するよう務める。
  2. 避難訓練などは、避難時間も計測しつつ、想定できる範囲で実際の避難行動を意識して行う。

## 2. 評価項目の達成及び取組状況

### 評価項目① 園の基本方針・保育の計画性

（達成） ゴスペル幼稚園全教職員が園の方針・各クラスやグループの保育内容・教育目標を把握できている。

（取組状況）通常保育終了後、毎日教職員による各クラス・グループの保育内容等の報告と確認、そして園児の活動や職員間での連携に関する報告や振り返りを行った。設定活動、朝やお昼の自由活動の時間など、教職員間での連携や常に園児との距離や関りを考えながら行動することを改めて意識付けした。昨年(2019年度)から、毎朝(7時55分)と通常保育終了後の15時前後から、毎日欠かさず祈祷と職員間ミーティングを参加可能な教員で行っている。翌日のクラス・グループ同士の連携など、教職員一人ひとりがその日の流れを事前に把握し、また終了後に反省・評価すること、またそこから発展を考えることを目標とした。その日そ

の日で活動に目的があり、その振り返りを今後も大切にしていきたい。

## 評価項目② 教師としての資質や能力・良識・適性

(達成) 各教諭が沖縄県私立幼稚園連合会(県内・県外)やキリスト教保育連盟(県内・県外)主催の研修会・講習会・公開保育に積極的に参加した。新型コロナウイルスの感染状況などで、年度当初は研修の中止等も多かったが、キャリアアップ研修など広範にWEB研修が可能になったので、積極的に活用した。

(取組状況) 研修の事前周知は全教諭に伝えられ、園からも必要な研修にはできる限り参加するよう促した。研修に参加したには教諭には、研修報告書(文章による概要説明と個人の振り返り・展開)を参加した研修から2週間以内に園に提出させた。研修内容の報告を通して、参加出来なかった教諭にもその研修内容を伝え、教師としての資質向上に努めている。

2020年度も、下記にある研修(安全対策、食育・アレルギー、幼少連携、特別支援など)について、それぞれ専門性のある分野の研修に参加することができた。2019年度同様、2020年度もシフト等を出来る限り調整し、キャリアアップ研修をはじめ、教職員が自身の教育の質向上のために各研修に参加できるよう学園内でもより積極的に取り組んできた。

### <2020年度参加研修一覧>(Zoom)

※下記は沖縄県私立幼稚園連合会、キリスト教保育連盟、キャリアアップ研修のみ記載

- 沖縄県私立幼稚園連合会
  - ◆ 主任教諭等研修会(2021年1月)ZOOM研修(4名参加)
- キリスト教保育連盟(沖縄部会)
  - ◆ 総会と礼拝メッセージ(2020年7月)
  - ◆ 夏の研修(2020年8月)研修内容は、キリスト教保育連盟本部が配信した講習会に各教師が参加した。
  - ◆ 秋の研修(2020年10月)キリスト教保育連盟本部(東京)より講師の高梨美紀氏(東京、茂呂塾保育園・園長)が講演(教師はZoom参加)
  - ◆ 園長・主任会(2021年1月)は中止
- キャリアアップ研修(参加した研修)WEB研修(2020年4月から21年3月)
  - ◆ 沖縄県指定保育士等キャリアアップ研修(食育・アレルギー対応)
  - ◆ 沖縄県指定保育士等キャリアアップ研修(障がい児保育)
  - ◆ 沖縄県委託キャリアアップ研修(保護者支援・子育て支援)
  - ◆ 沖縄県委託キャリアアップ研修(障がい児保育)
  - ◆ 沖縄県委託キャリアアップ研修(マネジメント)

### 評価項目③ 保育の在り方、幼児への対応

(達成) 全園児の登園から降園までの様子を観察し、園児一人ひとりに合った声掛けや接し方を心掛けている。

(取組状況) 単に同年齢の園児の発達や成長を比べるのではなく、日常生活の中で園児一人ひとりの発達や成長過程を把握し、全教職員間でその発達段階とその時々の園児個人の課題を共有することを意識している。必要に応じて、教職員ミーティングで個別の園児について繊細なアプローチが出来るよう心掛けた。特に、主任、担任との連携を強化して、園児の細かな身体的動きや情緒的な表現にも留意するように努めた。2020年度も、クラス補助の教員も一緒に課題や目標を共有し、主任・担任・補助の連携をとりつつ園児一人ひとりに対してより適切な関りが持てることを強く意識した。

### 評価項目④ 自然や地域社会とのかかわり

(達成) 食育の取り組みにおいては、園内施設において教師の管理・指導の下、園児達が自ら工夫して野菜や果物の栽培を行うことが年間を通して達成できた。新型コロナウイルス感染症があり、近隣の社会福祉法人の老人ホームや県立高等学校などとの交流(敬老会、ハロウィンパーティ、植樹祭等)は実施できていないが、感染状況次第で今後は交流会の再開を検討していきたい。

(取組状況) 自身で植えた野菜や果物の成長過程を園児達自身が探求心を持って観察できるよう工夫し、毎朝の水やりや観察にも積極的に参加を促した。教師達は、植物や食べ物の成長について、園児に対する言葉かけや子ども達自身に考えさせることを意識した。日誌や毎日のミーティングでも、食育の取り組みに参加した園児達の反応や感受性を教職員間で改めて共有することを心掛け、今後の食育活動に繋げていくことが確認された。

### 評価項目⑤ 幼稚園における安全対策

(達成) 安全対策として毎月1回、防犯・火災・地震等の訓練を実施できた。訓練の前後に、教師から園児向けの注意点や振り返りのお話も大切にしている(特に1学期)。年度内に2回の消防署と連携(訓練の事前通告を含む)を実施した。消防署との連携時には、実際に職員室から消防に連絡し、全園児、全教職員が参加して、万一来ることを心掛けている。

(取組状況) 火災訓練では、出火元を訓練毎に変えて、各回毎に臨機応変に対応できているか確認した。園児に、実際に「自分の命を守る」という意識を持ってもらうことを意識した。地震後の津波を想定した訓練も、年に2回近くの小学校への避難訓練が実施できた。2020年度は避難時(地震・津波訓練)の時間も複数回にわたり計測し、実際に避難ができるか時間の目標も定めて実施した。早く避難

しつつ、横断歩道を渡る際など園児の完全確保を職員間で何度も確認し、緊張感を持って訓練に従事した。

防犯訓練では、不審者対応・対策を教職員間で共有するようにし、園内の複数箇所に設置されている防犯カメラを職員が随時確認する等、部外者の園内への出入りを必ず確認するよう心掛けています。教職員には、改めて防犯カメラの位置と毎日稼働しているかの確認を義務付けています。

#### 保護者への対応と幼稚園からの連絡

(達成) 毎月のお知らせ等(園ホームページ、園だより、一斉メール)で園生活に必要な事柄を保護者に事前にお知らせし、日々の活動や園行事を円滑に進めることが出来ている。昨年度(2019年度)から保護者アプリ「コドモン」の運用を開始しているが、事務局における対応も含め、幼稚園のICT化を推進している。

(取組状況) 持ち物や行事の日時や集合場所といった基本のお知らせに加え、行事毎にアンケートを実施して保護者からの意見を受け止め、常に当該行事の分析と今後の課題を協議する機会を設けている。特に、保護者からの視点を意識しつつ園で出来る改善点を常に熟慮するよう努めている。コロナ禍にあり、大きな行事が例年通りの規模で実施できないことが多いが、その都度、保護者からの意見を教職員間で共有することを心がけ、教師だけの視点ではない周囲からの意見を取り入れることを意識している。

保護者アプリ「コドモン」によって、登降園の際の各園児の登園・降園時刻、毎月の保育料、給食の献立表や各グループスケジュールなど、多くの情報を保護者のスマートフォンで確認出来るようになっている。「コドモン」を導入して2年目になり、保護者の間でも本アプリの利用が定着してきている。お休み、遅刻、預かり保育の申込連絡も、保護者アプリからいつでも(24時間体制)幼稚園に連絡できるようにしており、教職員にとっても連絡がデータで残るので業務改善と連絡ミスの防止に繋がっている。